

所在地：大分県日田市  
面積：238.8 ha

選定年月日：平成20年3月28日、平成22年2月22日追加  
選定基準：二(一)(三)(五)(六)

## (1) 概要

日田市の最北端、大分県と福岡県との県境に位置する小鹿田皿山(さらやま)・池ノ鶴(いけのつる)地区は、北に英彦山(ひこさん)を控え、耶馬日田英彦山(やばひたひこさん) 国定公園の南西部を占める地域です。日田市北部を南流する小野川の源流の一つである大浦川及び五色谷(ごしきだに)川が形成した狭隘な谷地において両地区は形成され、水・土・木といった地域資源を巧みに利用した生活・生業が営まれています。

皿山地区では、当地で採取される陶土を利用した小鹿田焼の生産が行われます。「唐臼(からうす)」と呼ばれる陶土を粉碎する施設は河川の水力及びアカマツなどの木材を活用したものであり、窯焼きの燃料には周辺で産出される杉材が用いられます。

池ノ鶴地区では、急峻な斜面地に当地に分布するプロピライト(変朽安山岩)を利用した石積みの棚田が形成され、「除け」と呼ばれる独特の水利システムによって営農が継続されているほか、シイタケ生産や杉材を活用した薪炭材生産が行われています。

「小鹿田焼の里」は、英彦山系を源とする大浦川及び五色谷川によって形成された狭隘な谷間で営まれる、水・土・木等の資源を活かした窯業や農業といった生業が、当地における生活の在り方を示す重要な文化的景観です。



皿山地区全景



棚田と人工林

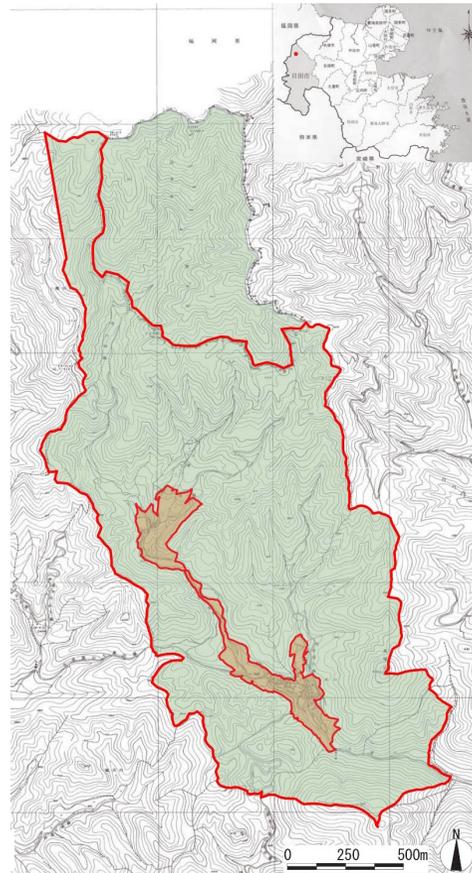


唐臼



炭焼き小屋・土蔵・ナバ(シイタケ)小屋

## （２）選定範囲



- 重要な構成要素：540件
- 国指定等文化財：小鹿田焼（重要無形文化財）  
豊後の水車風俗（選択無形民俗文化財）
- 重要景観構成要素：1,037件
- 重要文化的景観の形成に重要な家屋：12件

## （３）選定による効果

小鹿田焼の里では、平成22年の追加選定後の平成23年2月20日に「棚田景観と棚田の整備を考える」と題した講演や「地域の活性化と文化的景観」と題したシンポジウムを開催し、住民と意見交換を行い、理解を深めていただくことができました。

また、平成24年度から平成28年度にかけて、国の補助制度を活用し、池ノ鶴地区の重要な構成要素である棚田の保存整備事業に取り組んできました。この事業により、セマチ直し、石積の補修、耕作道の整備などを実施し、美しい棚田景観を継承することができました。



シンポジウムの様子



池ノ鶴地区の棚田整備後

## （４）保存活用計画などの基礎情報

- 小鹿田焼の里文化的景観保存計画（第三版）（平成22年3月、日田市）
- ホームページ  
[https://www.city.hita.oita.jp/kyouiku\\_iinkai/bunkazai/4430.html](https://www.city.hita.oita.jp/kyouiku_iinkai/bunkazai/4430.html)

## (5) 活用事例

### 事例44-01 ①

### 全国重要無形文化財保持団体協議会会員として他団体との交流

文化庁補助金

#### ●行政と住民等の協働による取り組み

「小鹿田焼の里」の集落景観区域のひとつで、窯業を生業とする皿山地区では、17世紀初めの開窯以来、300年以上にわたり「小鹿田焼」の伝統技術を連綿と受け継いでいます。

小鹿田焼は、平成7年に国の重要無形文化財に指定され、小鹿田焼技術保存会として、国庫補助事業による伝承者養成事業を実施しながら、後継者の育成に努めるとともに、過去に製作された秀作品を収集し、後世へ伝統技術を継承する活動を行っています。

また、重要無形文化財の指定を受けた同年、小鹿田焼技術保存会は全国重要無形文化財保持団体協議会（令和5～6年の会長・日田市長）に加盟しています。全国重要無形文化財保持団体協議会は、平成4年（1992）年に久留米絣など3つの保持団体と11の市町で設立され、現在は16の保持団体と関係する24市町村が加盟しています。

協議会では大会開催に合わせて、各保持団体の作品を展示する秀作展を実施しており、小鹿田焼技術保存会からも作品を出品し、小鹿田焼の素晴らしさを伝えています。



令和5年度秀作展出品作品 左から「尺六寸皿」「九寸切立鉢」「三合壺」



令和5年度秀作展出品作品 左から「一斗壺」「水差し」

令和5年度秀作展展示状況

団体等情報： 小鹿田焼技術保存会事務局（日田市教育庁文化財保護課）  
<https://www.city.hita.oita.jp/shisetsu/bunkazai/index.html>

① 地域内での  
魅力の共有

② 活性化の  
共有

③ 地域外への  
広報

④ 魅力を引き  
出す開発

⑤ 財源と運用  
確保

⑥ 人づくり